食・農 ぴっくあっぷ

2026年11月号
No. 212
東海農政局
ウェブサイト

令和8年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」受賞団体が決定しました

農林水産省は、農山漁村における「むらづくり」の優良事例を表彰し、その業績を広く紹介することを通じて、むらづくりの全国的な展開につなげていくため、農林水産祭の一部門として「豊かなむらづくり全国表彰事業」を実施しています。

令和8年度は東海農政局管内から「六ノ里自治会」が天皇杯及び農林水産大臣賞を、また「特定非営利活動法人おかざき農遊会」が東海農政局長賞を受賞することが決定しました。

受賞団体の詳細はこちら

天皇杯　東海農政局管内から40年ぶり

農林水産大臣賞

六ノ里自治会（岐阜県郡上市）



イラスト田んぼ



六の里棚田米


拝殿踊り


景観作物（そば）の栽培

○子どもたちに豊かな自然と棚田のある風景をつなぎたいとの思いから、平成20年にイラスト田んぼのイベントを核とした「六ノ里・棚田にじいろプロジェクト」を発足。

○平成21年に「六の里棚田米生産組合」を設立し、栽培管理を徹底して食味向上に取り組み「六の里棚田米」をブランド化。集落での生産者数、栽培面積が大きく増えたほか、おいしい米づくりが郡上市全体に波及。

○意欲ある若い住民が中心となって「六ノ里地域づくり協議会」を設立し、広報活動や拝殿踊り等の集落行事の運営等を行い、地域の魅力を外部に発信・提供。

○景観作物（そば）による荒廃棚田の再生活動、狩猟免許を取得しての獣害対策、「染め物工房」の創業など、農地保全や地域振興に、近年定着した移住者が貢献。

特定非営利活動法人おかざき農遊会（愛知県岡崎市）

東海農政局長賞

○「荒地は人の心を荒廃させる」を理念に、JAや市が主催する「農業塾」の修了生を中心に平成22年にNPOを立ち上げ、市民主体で荒廃農地解消と食農教育に取り組む。

○荒廃農地6.6haを再生し、共同ほ場として会員による野菜栽培や児童等の農業体験の場として活用。また利用者の経験等に応じた市民農園を開設・運営し、市民の農業への理解促進に寄与。

○会員が栽培した野菜を定期開催の朝市や産直などで市民に提供し、売上を管理農地の拡大や整備に再投資する好循環が形成され、補助金に依存しないNPOの運営を実現。

○食農教育として、小学校、福祉施設等への栽培指導やまちなか菜園の展開、あいちの伝統野菜「法性寺ねぎ」の保存継承活動を行い「菜園都市おかざき」の実現に貢献。


市民農園利用者の作業風景


幼稚園児による収穫体験


地域イベントへの朝市出店の様子


まちなか菜園の展開

お問合せ先　農村振興部 農村計画課　　TEL　052-223-4629

農林水産省
東海農政局

アジア競技大会の機会を活用して東海地域の食を紹介しました

東海農政局と中部経済産業局は、東海地域の「食」と「伝統的工芸品」の魅力を国内外へ発信するため、第20回アジア競技大会の「Aichi-Nagoya2026文化プログラム」に参画し、東海3県（岐阜・愛知・三重）の農産物・食品の試食と展示を行いました。
期間中、延べ450名を超える海外メディアや大会関係者に東海3県の食を体験いただきました。

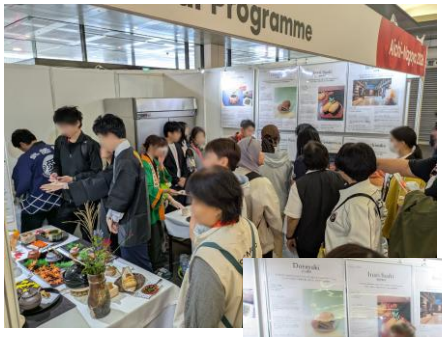
開催日：9月29日（火曜日）、30日（水曜日）
場　所：アジア競技大会メインメディアセンター（名古屋市）
内　容：①農産物・食品の試食・展示
　　②伝統的工芸品（陶磁器）の展示



協力いただいた事業者の皆様と東海農政局長（後列右から2人目）、中部経済産業局長（後列右から3人目）



和菓子職人による「練り切り」作りの実演





多くの方々に試食等を体験いただき、東海地域の「食」を紹介することができました

試食・展示した農産物・食品

米（ご飯）、稲荷寿司、
豆味噌（味噌汁）、漬物（守口漬）、
干し柿、和菓子（最中、どら焼き、
栗きんとん、練り切り）、
日本茶、グルテンフリービール

お問合せ先　経営・事業支援部 輸出促進課　　TEL　052-223-4619

丸山千枚田の稲刈りの集いに参加しました

9月12日、三重県熊野市の丸山千枚田に三重県内外から田んぼのオーナーら約800人の参加者が集まり、熊野市及び（一財）熊野市ふるさと振興公社主催による「稲刈りの集い」が開催されました。
前日までの雨も上がり、恵まれた天候のもと、東海農政局からは、小峰局長及び中川地方参事官、若手職員で構成される「みどりtokai2026」らが参加しました。秋雨の影響でぬかるんだ田んぼに足を取られながらも、昔ながらの手作業により、三重県の育成水稲品種「なついろ」の稲刈りからはさ掛け（天日干しする伝統的な乾燥方法）まで、オーナーの皆様と共に協力し合い、にぎやかに収穫作業を行いました。

丸山千枚田は、1,340枚という国内最大規模の枚数を誇る棚田で、農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に認定されており、「日本の棚田百選」にも選出されています。
平成8年度より「都市住民との交流を深めることにより、一緒に千枚田を守っていこう」という趣旨のもと、千枚田オーナー制度が始まりました。今年は、オーナー制度が始まって30年の節目の年でもあり、三重県内外から田んぼオーナーをはじめ多くの参加者が集まり、農作業を通じて棚田地域振興が図られています。



参加した職員たち



オーナーの皆様による稲刈作業の様子



稲刈作業中の様子



はさ掛け作業の様子



稲刈り作業を行う若手職員たち

お問合せ先　三重県拠点　　TEL　059-228-3151

届出・補助金等のオンライン申請システム「eMAFF申請2.0」へリニューアル

2026年10月、農林水産省共通申請サービス【eMAFF申請】を大幅にリニューアルしました。
本リニューアルにより、パソコン・スマートフォン等から24時間365日の申請が可能となるほか、入力不備の自動エラーチェックや過去申請内容の自動転記等により、申請にかかる手間やミスの軽減が図られます。

eMAFF申請2.0で申請できる手続

eMAFF 申請

約400件の農林水産業・食品産業に関する手続がオンラインで完結します。
eMAFF申請2.0のご利用開始時期は、制度によって異なります。

制度一覧はこちら

URL: https://www.maff.go.jp/j/kanbo/dx/emaff_shinsei_tetsuzuki.html

ご利用方法

ご利用に際しては、GビズIDの取得が必要です。

STEP 1 GビズIDの取得

STEP 2 eMAFF申請2.0へログイン

STEP 3 申請を開始

eMAFF申請2.0 トップページ

その他

「eMAFF申請2.0」についての詳細、よくあるご質問については、農林水産省ウェブサイトをご覧ください。

URL:
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/dx/emaff.html

農林水産省 eMAFF申請ページ

お問合せ先　企画調整室　　TEL　052-223-4609

～生産者、畜産に携わる関係者の皆様へ～ 高病原性鳥インフルエンザ防疫対策の徹底をお願いします

11月に入り、渡り鳥の本格的な飛来時期を迎えたことから、高病原性鳥インフルエンザウイルスが国内へ侵入するリスクが極めて高まっています。
昨シーズンは、過去2番目に早い10月22日に飼養鶏での発生が確認されて以降、本年4月22日までに国内で24事例の発生が確認されました。
今シーズンは、10月25日現在、発生が確認されていませんが、9月1日に宮城県で渡り鳥の飛来が確認されて以降、全国各地での飛来が続いています。飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、今一度、警戒を強めましょう。

農場における発生予防対策

■人、物、車両の入出時対策
- 衛生管理区域専用の衣服や靴の使用
- 着用前後で交差のない動線、明確な境界の確保
- 適切な車両消毒、手指消毒の実施
- 家きん舎ごとの専用の靴の使用

■飼養衛生管理基準の強化
- 養鶏集中地域や過去続発地域をあらかじめ指定(大臣指定地域)し、地域ぐるみでの野鳥対策や発生時の速やかな消毒対応等を実施
- 再発農家への改善確認の強化
- 大規模農家での分割管理の検討
- 野生動物の侵入防止、誘引防止
- 鹿埃（じんあい）対策　等





健康観察と異状の早期発見

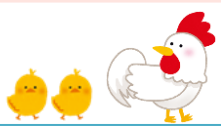
■家きん所有者は毎日の健康観察を入念に行い、異状を認めた場合は速やかに管轄の家畜保健衛生所に届け出。**家畜保健衛生所、産業動物獣医師など第三者の視点も活用して対策を向上させましょう！！**

～消費者の皆様へ～

鳥インフルエンザが発生した場合でも、**感染が確認された鶏の肉や卵が市場に出回ることはありません。**
また、内閣府食品安全委員会は、我が国の現状において、**鶏肉や鶏卵などを食べることにより、人が鳥インフルエンザ（ウイルス）に感染する可能性はない**との見解を示しています。

<消費者相談窓口>　　消費・安全部 消費生活課　TEL 052-223-4651





◆鳥インフルエンザへの対応については、こちら
https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/anzen/tori/index.html

お問合せ先　消費・安全部 畜水産安全管理課　　TEL　052-223-4670

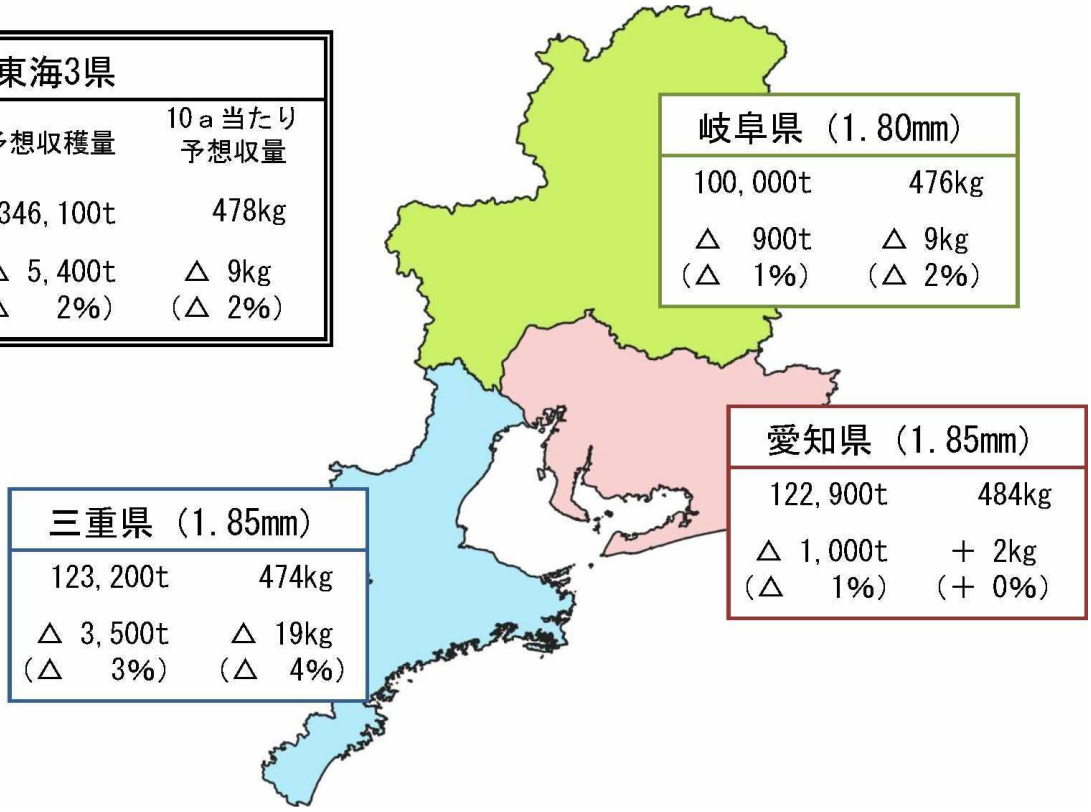
令和8年産水稲の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量を公表しました

東海農政局は、10月13日、令和8年産水稲の作付面積及び予想収穫量を公表しました。
東海3県の令和8年産主食用米の作付面積は7万2,400haで、前年産に比べ100haの増加が見込まれます。また、予想収穫量は34万6,100トンで、前年産に比べ5,400トン（2%）の減少、10ａ当たり予想収量は478kgで、前年産に比べ9kg（2%）の減少が見込まれます。

注：予想収穫量、10ａ当たり予想収量は生産者が使用しているふるい目幅（1.80㎜及び1.85㎜）ベース

県別予想収穫量及び10ａ当たり予想収量（9月25日現在）

東海3県	予想収穫量	10ａ当たり予想収量
令和8年産	346,100t	478kg
対前年差	△ 5,400t（△ 2%）	△ 9kg（△ 2%）



お問合せ先　統計部 生産流通消費統計課　　TEL　052-763-4732

イベント情報

あいちの農林水産フェア

11月28日㊏・29日㊐

【時間】28日10時～16時
29日10時～15時
※ブース出展は29日のみ

【場所】久屋大通公園エンゼル広場

【内容】・もみすり・精米体験
・クイズ

食（FOOD）フェスタ2026

12月5日㊏・6日㊐

【時間】10時～17時

【場所】イオンモール名古屋茶屋

【内容】・みどりの食料システム戦略に関連したパネル展示・クイズ
・チラシ配布

みえるらべるPRイベント

12月12日㊏

「たき土力の会」メンバーと相可高校との連携イベント

【時間】10時～15時

【場所】マックスバリュ多気店

【内容】・パネル展示（みえるらべる紹介）
・野菜摂取量の測定
・たき土力の会と相可高校生による環境に配慮して生産された野菜とお米の販売

お問合せ先　企画調整室　　TEL　052-223-4628



GREEN×EXPO 2027

開催まで あと 5か月！

開催期間：令和9年3月19日（金）から9月26日（日）
開催場所：横浜市

【編集後記】朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じる頃となりました。紅葉が美しく、各地で秋の味覚も楽しめる季節です。体調管理に気を付けながら、健やかに過ごしたいですね。

＜編　　集＞ 東海農政局 企画調整室　TEL 052-223-4628
＜ウェブサイト＞ https://www.maff.go.jp/tokai/　東海農政局

「食・農びっくあっぷ」ウェブサイト
メールマガジンの登録はこちら
東海農政局公式 X